学校番号	１０８

令和２年度　芸術（音楽）

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	２単位	学年	２年
使用教科書	ON！２（音楽之友社）						
副教材等	なし						

1.担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の 4 つの分野について学習します。
　各学期（１回以上）、実技発表をソロ又はグループで実施します。
・学習の到達度は、授業での実技テストやワークシートで評価します。
・音楽が生涯にわたって心の支えとなり、皆さんの生きる力になることを願っています。

2.学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、 感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3.学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱・器 楽・創作・鑑賞の学習 に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱・器楽・創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な、歌唱・器楽・創作の技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評価方法	観察	観察 演奏の聴取	演奏の聴取 提出作品	観察 ワークシート 感想文

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 授業における生徒の

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	曲の持つ音に合う表現で	【歌唱】 「涙そうそう」 等	○	○	○	○	a:曲の持つ音の使い方を感じその個性を味わい、生徒自身がイメージをもって歌うようしている。 b:音楽の流れを感覚的に掴み、その流れに乗った自然な動きを自分の声でより良く歌う。 c:表現したいことを明確に伝えるための歌唱の技能を身に付けている。 d: ちょっとした表現の良さや更に、こうすればというものを感じながら他生徒の歌を聴く。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	3重奏をする	【器楽】 ギター 「さくらさくら」 等	○	○	○		a:琴をイメージした３重奏用編曲を行い各パートにメロディー・伴奏を分担し旋律・アルペジオ等両方経験する。 b:アンサンブルでのパートの掛け合いの重要性を体感する。 c:音楽の本質である「表現したいことを伝える」ためのポイントを色々試しながら発見する。	観察 演奏の聴取
		【創作】		○	○		b:短いモチーフを基に自分でギター演奏できる曲を創る。 c:表現に必要な左指（アーティキュレーション）と右指の使い方を習得する。	観察 楽譜 演奏の聴取
	音楽からイメージをふくらませる	【鑑賞】 「動物の謝肉祭」	○			○	a:サン＝サーンスの感性とウィットから生まれた音楽が、どう楽器（音色）を生かして動物を効果的に表しているかを聴きとる。 d:各曲の端的な動物表現を自分の抱いたイメージと照らし合わせる。 。	観察 ワークシート

2学期	英語のリズム感を生かして表現する	【歌唱】 映画音楽 「美女と野獣」等	○	○	○		a:英語曲の発音とメロディーとが表す場面や心情、登場人物の心の変化等、曲の意味するものをとらえ、イメージを明確に持って歌おうとする。 b: メロディーラインや曲の展開を歌いながら感じ取り更に強いイメージを持って、最適な表現になるように「音楽」そのものを自分の感情として歌う。 c:自らの感性に沿った音楽作りに、イメージをもってマッチするよう発声、英語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付ける。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	篠笛を習得	【器楽】 篠笛 練習課題	○	○	○		a:篠笛の日本音楽における役割を知った上で必要な「息」と「音色」で演奏する。 b:１年次感じとった西洋の横笛との本質的違いを明確にし篠笛本来の良さや音色やフレーズ感を自分の物にする。 c:篠笛の音色や更に高度な奏法を生かした技能を身に付け、「空間」を作り出せるよう演奏する。	観察 演奏の聴取
	器楽曲を聴く	【鑑賞】 無伴奏曲	○			○	a:管弦楽器には、伴奏を伴った曲が多いが、無伴奏曲の面白みを感じる。 d:伴奏が無くとも旋律の中に復旋律を忍ばせていることもあり、単純な同時に響く和声は無いが、音楽の流れの中で和声を感じる事が出来、より楽器の音色の純粋な響きの魅力が出ることに注意する。	観察 ワークシート
	篠笛に合つたメロディーを創る	【創作】	○	○	○		a:横笛に適した音楽の流れにイメージを閃かせる。 b:西洋楽器に比べ限られた音域と微妙な運指の篠笛に対しどうすればその良さを引き出す表現が可能な音楽をつくれるかを念頭に置く。 c:楽譜は、便宜上五線譜で記し出来るだけ幹音で演奏できるものを創作する事により互いの曲を演奏し易くする。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	グループワーク	3重唱 「いつか王子様が」等	○	○	○		a:グループで動きながら重唱するが、その過程でどうハーモニーをつくるかグループメンバー全員で練習していく。 b:旋律の流れに加え瞬間のハーモニーを感覚的に捉えることで曲のニュアンスを表現に結び付ける。 c:各パートのバランスをどうすれば最良のハーモニーを得られるかお互いよく聞きながら、場合によっては、録音をしそれで確認する。	観察 ワークシート 演奏の聴取

3学期	リコーダーの重奏	2重奏 「となりのトトロ」等複数曲より選択	○	○	○		a:耳に馴染みのある「となりのトトロ」の２重奏用編曲等（複数曲から選択）を演奏する。 b:音価・アーティキュレーションに注意し演奏する重要さを認識する。 c:表現に必要なアーティキュレーションと音質を習得する。	観察 ワークシート
	日本の曲を歌う	【歌唱】 「唱歌の四季」等	○	○	○		a:幼いころに耳にした事のある曲がメドレーで綴れているので親しみやすい。 b:地元にちなんだ「もみじ」も謳われておりより深い内容まで入り込める。 c:音楽の流れに合った息の使いかを会得する。	観察 ワークシート 演奏の聴取

※　表中の観点について　a:音楽への関心・意欲・態度　　b:音楽表現の創意工夫
　　c:音楽表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の３観点で、「鑑賞」の分野は a, d の２観点で評価をする。

※　尚、各学期の授業時数を考慮し行う項目を限定する必要がある。

※　年間を通じて全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行なう。